

**第3回 (仮称) 宇都宮市住生活マスタープラン策定懇談会
会議録**

1 開催概要

- ・ 日 時 令和5年2月9日(木) 午前10時00分～午前11時10分
- ・ 場 所 B1F 災害対策本部室
- ・ 委 員 (委員区分ごと団体名五十音順, 敬称略)

委員区分	分野	所 属	氏 名
学識経験者	住宅・都市政策	宇都宮共和大学 シティライフ学部 教授	陣内 雄次【座長】
	建築・都市計画	宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科 准教授	佐藤 栄治【職務代理者】
	福祉	宇都宮短期大学 人間福祉学科 教授	益川 順子
	子育て	作新学院大学女子短期大学部 幼児教育科 教授	坪井 真
関係機関	地域福祉	社会福祉法人 宇都宮市社会福祉協議会 常務理事	平手 義章
	地域振興	宇都宮商工会議所 常務理事	小関 裕之 ※リモート
	住宅市場	公益社団法人 全日本不動産協会 栃木県本部 副本部長	平山 満 ※リモート
	まちづくり	地域まちづくり推進協議会 副会長	小池 恵一郎
	金融	一般社団法人 栃木県銀行協会	佐藤 貴之
	住宅設計	一般社団法人 栃木県建築士事務所協会 副会長	山崎 良知
	住宅市場	公益社団法人 栃木県宅地建物取引業協会 会長	青木 亨 ※欠席
	マンション	栃木県マンション管理士会 会長	曾我部 洋水
賃貸住宅	栃木中央賃貸住宅経営者協会	日向野 健一	
行政	栃木県県土整備部住宅課 課長	大橋 正之	

- ・ 事務局
都市整備部 青柳部長, 高橋次長, 松本次長 (NCC担当)
住宅政策課 黒崎課長, 根岸課長補佐, 赤羽係長, 野田総括, 緑川主任主事,
生駒主事
- ・ 公開・非公開の別 公開
- ・ 傍聴者 無し

2 会議結果

(1) 議 事

「(仮称) 宇都宮市住生活マスタープラン」(素案)に関するパブリックコメントの結果について

ア 結果概要

- ・ 議事については, 事務局案のとおりとする。

イ 発言内容

※発言者については, 略称で表記

発言者	発言
事務局	・ 資料説明 (約30分)
益川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの資料を専門である福祉の分野から拝見した。 ・ 勤務先の学生を見ると, 卒業後は栃木県内や市内就労希望者が多く, 20代女性は県外転出が多いと聞かすが, 私の周囲では, 東京へ進学してもUターンするケースが多い。 ・ 色々な取り組みがなされていて大変興味深い内容なので引き続き勉強していきたい。

坪井委員	<ul style="list-style-type: none"> 基本政策1-1-3の生活交通の確保充実という項目について、子育て支援の専門の立場から見ると、公共交通機関を利用して子どもを保育所に預けるケースはあまり多くないと思うが、子育て世帯の生活導線をどのようにとらえているのか教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関等による交通利便性のほか、保育・教育施設等が住居の近くにあるような生活利便性も充実しているNCCへの居住誘導を推進することにより、子育て世帯の住生活を支援していく。
平手委員	<ul style="list-style-type: none"> 全体として非常によくまとまっている。特に基本施策3-2の住宅確保要配慮者の円滑入居促進について、居住支援協議会の設置をあげていることは非常に評価できる点として期待している。 住宅確保要配慮者には日常生活に関する様々なサポートが必要であるから、私共の団体でも早い段階から意見交換をして協力連携していきたい。
小関委員	<ul style="list-style-type: none"> 今の時代に求められているような要素機能を十分に網羅しており、宇都宮市の特徴であるNCCやSSCも盛り込んだ特徴的な計画になっていると思う。 行政と民間が連携しやすい部分とそうではない部分もあるかと思うが、そのようなことから、一般市民の方の生活向上には、このような大きな計画が必要だと思う。 今後10年間の計画ということで、適宜見直しをして進めてほしい。
小池委員	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりの立場からは、第6章のプランの推進で市民との連携を今後どのように進めていくかが一番気になる。 NCCやSSCを枠組として、まず市の中で情報共有などの連携を図り、関連部署各々の観点からまちづくりを進めることを期待している。
佐藤（貴）委員	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関の立場から遺産整理や遺言執行などの場に立ち会う機会が多く、空き家対策や住宅ストックの管理には大きく関与していけると考えている。 空き家バンクや空家解体ローンなどのサービスを充実させることで空き家活用をサポートしていきたい。
山崎委員	<ul style="list-style-type: none"> マスタープランの内容は素晴らしく感じており、今後は市民にどのように浸透させていくかが課題だと思う。 設計事務所の団体の立場から見ると住宅改修等の補助金の内容がよりわかりやすく、申請手続が簡易となれば、より施策効果が向上するものとする。
曾我部委員	<ul style="list-style-type: none"> 長期修繕計画では積立金の問題などがあるが、こういうものは社会情勢の影響もあるので、国や自治体から他のマンションの事例等の情報提供があるとありがたい。 自治会というキーワードが出ていたが、マンションは別世界という感覚がどうしてもあるので、地域活動へ参加することの大切さなどをマンションの住民にも訴えていきたい。
日向野委員	<ul style="list-style-type: none"> 住宅に関する支援制度を知らない方は多いと感じたところであり、事業者への広報活動等、今後どのように周知していくかが重要と考える。 市の施策にはどのような目標があるのか、興味を持っていただければ、市民の皆さんの心も動くものと思うので、今後の周知展開に期待している。
大橋委員	<ul style="list-style-type: none"> 居住支援協議会の立ち上げとあるが、入居者には障がい者や高齢者、子育て世帯や外国人など様々な方がいるので、関係する部局との連携を図りながら協力をお願いしたい。

平山委員（代読）	<ul style="list-style-type: none"> 分譲マンションを取り扱っていると、東京圏の方から宇都宮市について話を聞かれることが多い。宇都宮は首都圏から見ても魅力のある街だと思うので、引き続き様々な施策をしていただきたい。
佐藤（栄）委員	<ul style="list-style-type: none"> 本計画案は、現状課題から基本理念・目標を掲げて活動の展開という一連の細かい分析の上で整理されており、上位計画であるSSCやNCCと関連させて住宅を基準にどう考えるか分かりやすく纏まっている。 NCCに地域ごとの住宅事情や特色が紐づくことより魅力があると思える。 東京圏からの移住については、通勤圏として都内郊外と同位置であること以外に、宇都宮市の一步先の魅力があると、より人が集まると思う。
	—— 了 ——

(2) その他

※ 新年度より新たに実施を想定している主な事業である「民間住宅を活用した新たな住宅セーフティネット制度」について紹介

ア 発言内容

※発言者については、略称で表記

発言者	発言
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料説明（約10分）
日向野委員	<ul style="list-style-type: none"> セーフティネット専用住宅の登録基準で床面積が25㎡以上とあるが、これはシェアハウスのような場合か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 共用部分のない住宅については25㎡、シェアハウスのような共有部分を含む場合は9㎡となっている。なお、本計画において、市独自の措置として、共用部分のない住宅の登録基準を25㎡から20㎡に緩和する予定である。
陣内座長	<ul style="list-style-type: none"> 空き家問題については、空き家に至った背景として、そこにどのような生活があり、その生活が至らなくなった背景には何があるのかということに想像を働かせて住宅政策を進めてもらいたい。 市役所の強みは、住宅を中心として、色々な政策を考えられる人材が育っているものという気がしている。他の行政分野との積極的な人事交流を期待したい。 NCCに関連付けて本計画を推進していくうえで、佐藤先生の指摘はとても重要であり、住宅という部分で宇都宮市独自の魅力をどのように作っていくのか期待している。
	—— 了 ——